

てるちゃんと 空飛ぶ風船



てるちゃんは、
じゅうどうが だいすきな
ペンギン。



きょうも いつもの こうえん。

てるちゃんは、ことりさんたちと
なかよく おやつを たべています。

はなれた きには、
ハヤブサくんが います。
「きょうも どうぞ。」



けれど ハヤブサくんは、
にこりともせず、
「ありがとう」も いいません。
それでも てるちゃんは、
いつも にこにこしながら
おやつを わたします。

つぎのひ、しららはまで
サンドアートたいかいが
はじまりました。

うみべの かいじょうは、
わくわくで いっぱいです。





てるちゃんと なかまたちは、
かいじょうに くる
こどもたちの ために、

フルーツの かたちをした
カラフルな ふうせんを
たくさん ふくらませました。



ふうせんが できたので、
てるちゃんたちは、
サンドアートの さくひんづくり。

すなを はこんで、
ざあ、ざあ。
ぎゅっ、ぎゅっ。

みんなで ちからを あわせます。
さあ、なにが できるかな？

まずは、
おおきな すなの どだいを
つくりました。

「ちょっと きゅうけいしよう！」

てるちゃんたちは、
ひとやすみ。





みんながひとやすみしていると、
こどもたちがふうせんのまわり
にあつまってきました。

みんな、ふうせんが
ほしいようです。



「みんなにふうせんを
わたそう！」



てるちゃんたちは、
たくさんの ふうせんを
もちました。

「これから みんなに、
フルーツの ふうせんを くばるよ！」
「ひとり、ひとつだよ！」

てるちゃんが
にこにこ はなしていると——



びゅうううん！

とつぜん、
つよい かぜが
ふいてきました。



「わあっ！」

ケンケン、はまにゃん、
かりんちゃん、
かぜで とばされそうです。

「あぶない！」

てるちゃんは、
とんでいこうとする
ふうせんを
つぎつぎと キャッチしました。

こどもたちは、
てるちゃんの キャッチを みて
おおよろこび！



ところが、こんどは——

たくさんの ふうせんを もった
てるちゃんが、
かぜに ひっぱられて、

ふわっ！

ちゅうに うかびました。

「わあっ！」





びゅうううう！

つよい かぜに ひっぱられて、

てるちゃんの からだは、
ふうせんと いっしょに

おおぞらへ とびあがってしまいました。

「たいへん！
てるちゃんが おそらに
とんでいった！」

「たすけを よばなくちゃ！」

みんなは それぞれ、
たすけを もとめて
はしりだしました。



ケンケン、
しょうぼうしょへ
かけこみました。

「てるちゃんが
そらへ とばされちゃった！
たすけて！」



しょうぼうしさんたちは、
はしごを いっぱいまで
のばしました。

けれど——

「だめだ！
あんな たかい ところまでは
とどかない！」



はまにゃんは、
ひこうじょうへ
かけこみました。

「ヘリコプターで
てるちゃんを たすけて！」



けれど、しょくいんさんは
こまった かおで いいました。

「ごめんね。
ヘリコプターは
となりまちへ いっているんだ。

ゆうがたまで
もどってこないよ。」



かりんちゃんは、
レスキューほんぶへ
かけこみました。

「てるちゃんか
おちてきたら、
うけとめて！」

レスキューたいは、
おおきな マットを
すぐに ひろげました。

けれど——

「こまった！
どこへ おちてくるのか
わからない！」





そのころ、てるちゃんは、
ふうせんで、ふかふか
おそらをおさんぽ。

「うわー！
ぼく、はじめて
おそらをとんだよ。

おそらをとぶって、
たのしいな！」

でも——
「どうやって
おりたら いいんだろう……。」



てるちゃんは、
こまってしまいました。

けいちゃん、
ことりさんの いる こうえんへ
かけこみました。

「たいへん！
てるちゃんが
おそらへ とばされちゃったの！」

「おねがい！
てるちゃんを たすけて！」





ことりさんたちは、
てるちゃんのもとへ
いっせいに
とんでいきました。



「てるちゃん、
だいじょうぶ？」

ことりさんたちは、
てるちゃんを みつけて、
たすけに きてくれました。

てるちゃんは、

「ふうせんが おおすぎて、
したへ おりられないんだ。」
と いました。



「じゃあ、ぼくたちが
ひとつずつ うけとるよ！」

ことりさんたちは、
てるちゃんから
ふうせんを ひとつずつ
うけとりました。

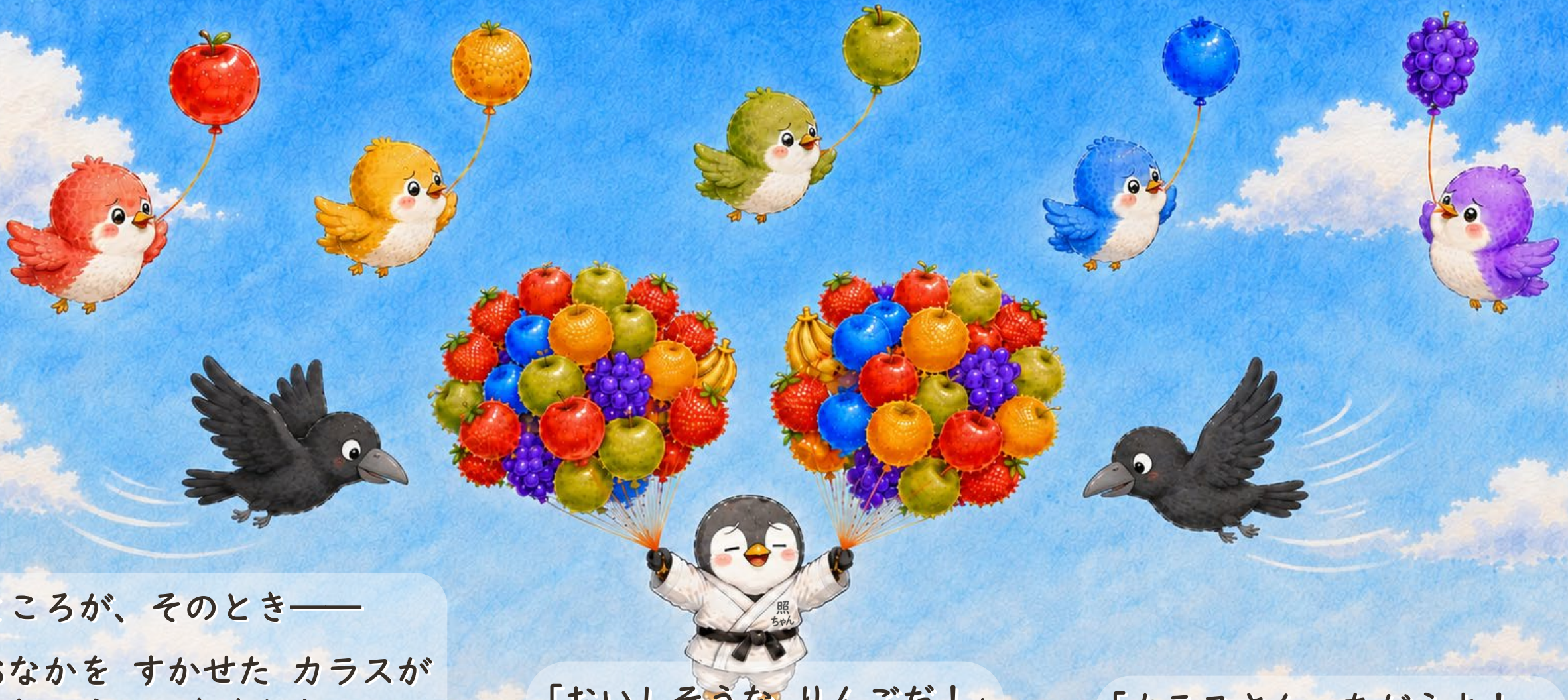


ことりさんたちの おかげで、
てるちゃんは ゆっくり
したへ おりていきました。

「ありがとう、ことりさんたち！
たすかったよ！」

「これで みんなの ところへ
かえられる！」

てるちゃんは、
ほっとしました。



ところが、そのとき——

おなかを すかせた カラスが
2わ、やってきました。

「おいしそうな りんごだ！」

「ほんとうだ！
オイラも はらぺこ！」

「いただきまーす！」

「カラスさん、ちがうよ！
それは ふうせんだよ！」

てるちゃんは、
ひっしに よびかけます。



パン！

パン！

パン！

！

「たいへん！」

ふうせんが
いくつも われてしまいました。



ふうせんが へった てるちゃんは、
まっさかさまに
おちていきます。

「わあー！
たすけてー！」

あまりの はやさに、
ことりさんたちも
おいつけません。



そのとき——

ビューン！

なにかが
ものすごい はやさで、

おちていく てるちゃんを
おいかけていきました。

それは、
ハヤブサくんでした！



ハヤブサくんは
かぜを きって、
まっすぐ
てるちゃんへ
とんでいきます。



ガシッ！

ハヤブサくんは、
てるちゃんの くらおびを
あしで しっかり つかみました。

そして——

ぐいっ！

てるちゃんの からだを
ちからいっぱい
うえへ もちあげました。

「ハヤブサくん、
ありがとう！」

ことりさんたちも
てるちゃんに おいついてきて、
くわえていた ふうせんを
てるちゃんへ わたしました。

すると、てるちゃんは
ふわり、ふわり。
また ゆっくり
おりていきます。

ハヤブサくんは、
カラスたちが
もう ちかづかないように、
そばで みはっています。



そのころ、すなはまでは、
ケンケン、はまにゃん、
かりんちゃん、けいちゃんが、



てるちゃんのかえりを
まちながら、
すなでハートのかたちを
つくっていました。

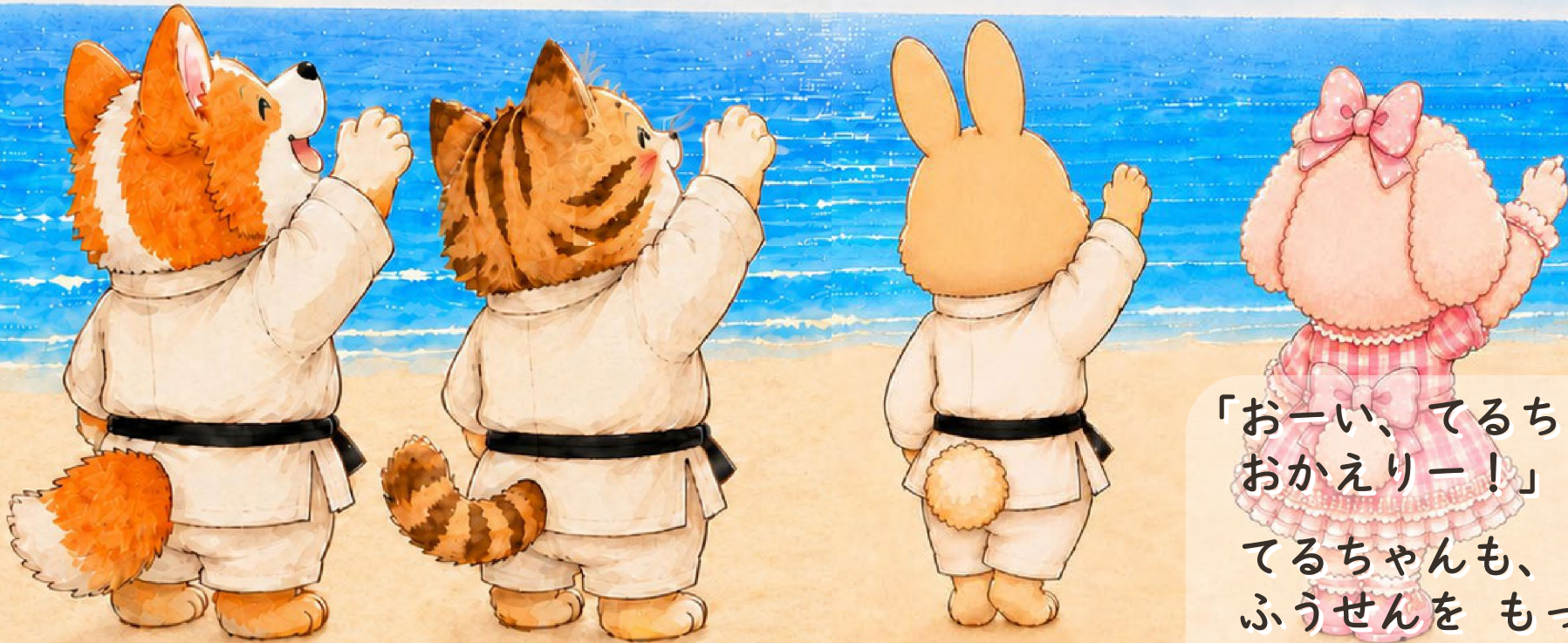


「てるちゃん！」

みんなは てを とめて、

うみの うえを

かえってくる てるちゃんに、
おおきく てを ふりました。



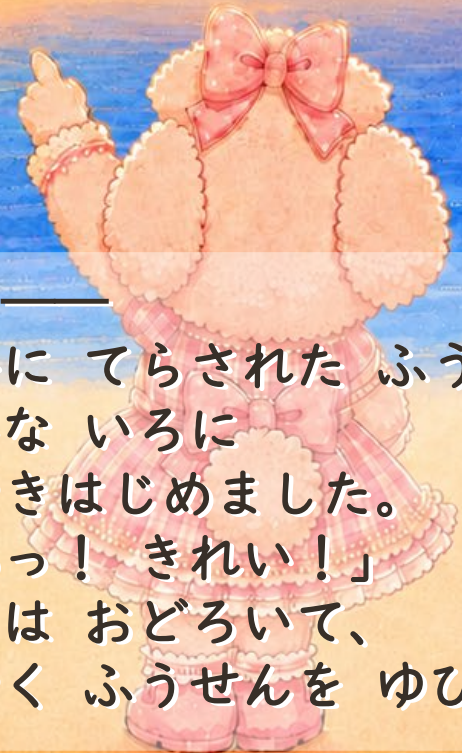
「おーい、てるちゃん！
おかえりー！」

てるちゃんも、
ふうせんを もった りょうてを
おおきく ふりかえしました。

てるちゃんが
りょうてを ふるたび、
ふうせんも
ゆらり、ゆらり。
いつのまにか、
ふうせんは
ハートの かたちにな
っていました。



そして——
ゆうひに てらされた ふうせんは、
きれいな いろに
かがやきはじめました。
「わあっ！ きれい！」
みんなは おどろいて、
かがやく ふうせんを ゆびさしました。



ふうせんを とおった
なないろの ひかりは、
すなはまに
やわらかく ふりそそぎ、

おおきな
にじいろの ハートを
うかびあがらせたのです。

「わあ、きれい！」

かいじょう いっぱいに、
おおきな はくしゅが
ひびきました。

パチパチパチ・・・



そのよる、
サンドアートたいかいの
ひょうしょうしき。

てるちゃんたちの さくひんは、
みんなを えがおにした
すてきな さくひんとして、
とくべつしょうに
えられました。

パチパチパチ...

てるちゃんたちは、
ハートの トロフィーを
もらいました。

つぎのひ、
いつもの こうえん。

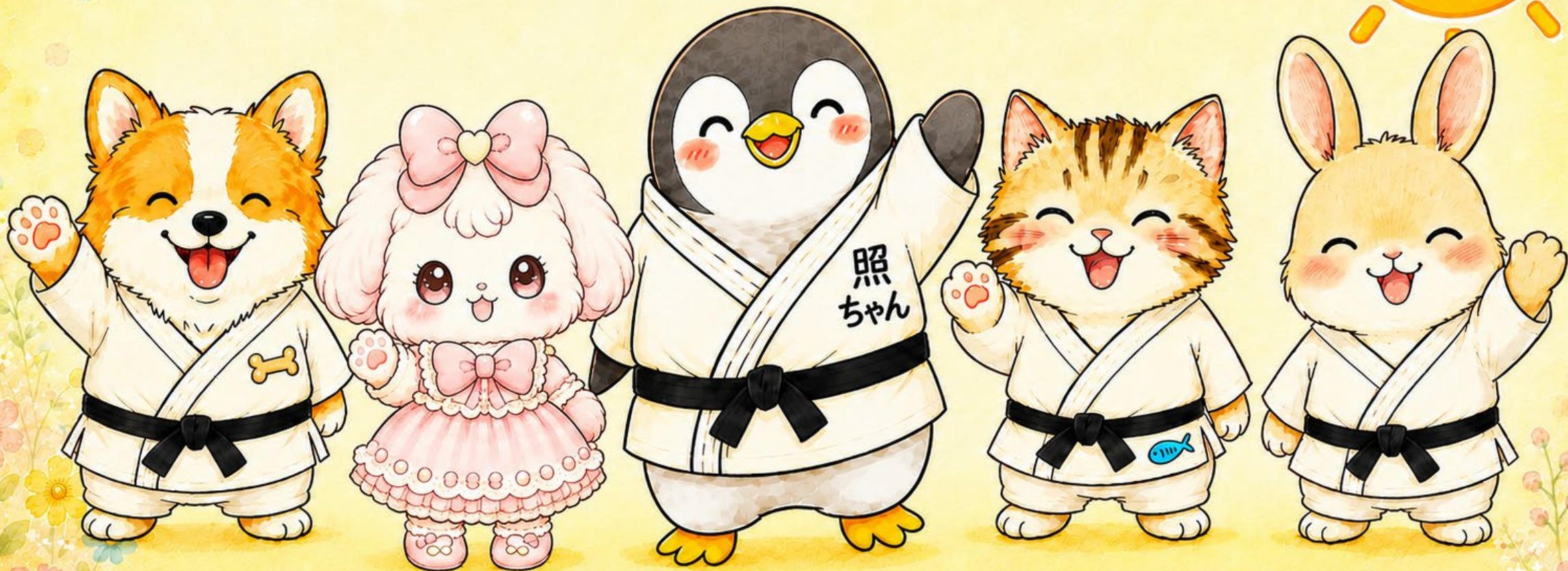
きょうは、みんなで
とくべつしょうの おいわいです。

みんなで わいわい、
たのしい おやつの じかん。

てるちゃんは、
ハヤブサくんに
クッキーを さしだしました。
「きょうも どうぞ。」
「ありがとう。」



またね。



みんな!
白浜町に
来てね!

てるちゃん





2026年8月制作

